

# 平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立金堀小学校

学級数

13

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

思いやりの心をもって 自分や周りの人たちを大切にする子

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

## 取組の概要

### 1 取組のきっかけ

H21・22年度の2年間の研究で、目的を持った言語活動を設定することにより、各教科のねらいにせまることができ、子どもたちが考える力を身に付けることにつながることを実証された。しかし、言語活動を充実させるためには、基礎・基本をしっかり定着させることが必要となるという課題も明らかとなった。

これらの成果と課題や本校児童の実態を踏まえ、重点教育目標の具現化を図るためには、子ども一人一人の学びに目を向け、各教科における「習得」と「活用」を意識した授業づくりを行い、さらに、授業における学び合いの場を大切にすることが必要不可欠であるという共通認識をもつに至った。

### 2 取組の位置付け

研究部が中心となり、校内研究を計画的に進め、授業改善に取り組んでいる。

### 3 取組の方法

研究計画1年次目である昨年度は、研究主題を「学び合いを通して活用する力をはぐくむ」とし、「学び合い」活動を通じた考える力の育成を進め、互いの授業を公開して授業評価をし、日常実践の交流をすることで指導法や指導形態の工夫など授業の改善を図った。授業を構築する際は、

- 日常的、実用的な言語活動を生かす授業づくり、
  - ねらい・意図を明確にした「学び合い」から高まる授業を目指してきた。
- そこで、今年度（2年次目）は、具体的に以下の点を踏まえて、校内研究を進めている。
- ① 子どもたちの思考の流れを意識した学び合いの成立条件とは何かを明らかにしていく。
  - ② 本校の「学び合い」の柱を共通理解し、教師にも子どもたちにも「学び合い」がよりみえるようにしていく。
  - ③ 教科の特性を意識した「学び合い」について、確認を行う。
- また、11月22日（木）には、「教育実践発表会」を行い、校内研究の取組と成果を家庭や地域にむけて発信することが予定されている。

## 取組の成果と課題等

### ○ 取組の成果

- ・ 11月22日に教育実践交流会を実施し、校内研究の取組と成果を発信するとともに、外部からの学び取りを行った。

(成果) → 「その一手」を明確にした授業を行うことで、学びの連続性を意識した取組を行うことができ、次のような成果が得られた。

『算数の学習では、必ず「はやく・かんたん・せいかく」を意識することで、どのように解くのかを考えるようになった。』

『友だちの考えを聴く時も、同じ視点で話し合えるので、議論をより深めることができた。』

『カードをはることで、発表が苦手な子も授業へ参加する姿勢が積極的になった。』

『図、式、言葉（キーワード）を使って説明することにより、自分の考えを整理することができた。』

『話し合いの際には、「共通点」「違い」などを意識して話を聞けるようになってきた。』

『ワークシートに自由に記入しながら考えさせたことで、思考が広がった。』

『自力解決し自分の考えをペアで交流することで、お互いの考えを学び合い広げることができた。』

(成果) → 参観者から客観的な意見や助言を伺うことができた。

『話し合いの場の設定、意見（考え）の比較、その分類・選択がスムーズにながれ、一つの物語として授業が成立している。子どもたちが生き生きと活動していて日常の積み重ねの成果と感じた。』

『先生が先になるのではなく、児童が主体的になってグループごとに説明、児童の学ぶ意欲を引き出している指導方法、これこそ①学び合いを通して活用する力を育む②学び合う授業にせまる学校の目標に合致した指導だと感じた。』

『全体会で説明があった、「比較」「分類」「関連づけ」「選択」を教科横断で授業研究の視点にすることは、とても大切なことだと思う。』

### ○ 教育課程検証の方法

- ・ 教務、教頭を中心に各学級の週案簿・時数集計表のチェックを行い、授業時数が的確に確保されているかどうか、量的な管理を行っている。
- ・ 全国学力・学習状況調査の結果について分析を行い、全体的な傾向を明らかにした上で、具体的な対策について話し合いを行った。
- ・ 学校評価や保護者アンケートなどの結果を基に、達成状況を把握し、改善に努める。